

日本で働く外国人の健康を守るために — 結核感染症対策を中心に

(特活)シェア＝国際保健協力市民の会

副代表 沢田貴志

2017年6月16日

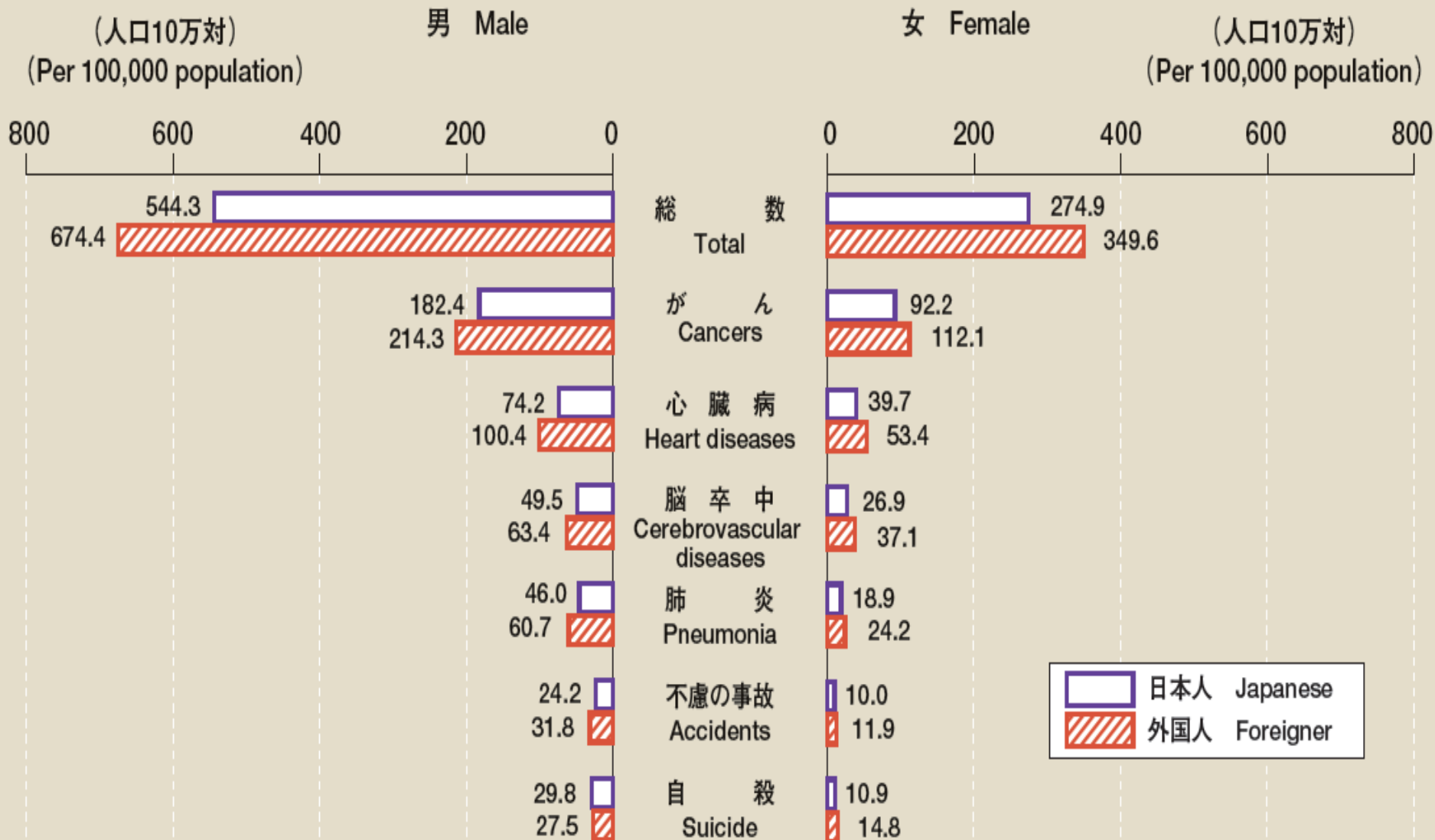
シェア Health for all !

- 住民のニーズに基づいた活動 — 相手の視点に立つことから始める
- 適正技術による地域資源の有効活用 — 支援に頼らない住民の自立を目指して
- 住民参加 — そこに暮らす人々が活動の中心となり地域を変える
- 人づくり — 一人が人を支え、地域の健康を生み出すために
- 多分野間の協調と統合 — 誰もが健康改善の担い手となる



主要死因別年齢調整死亡率の国籍別比較 2010年

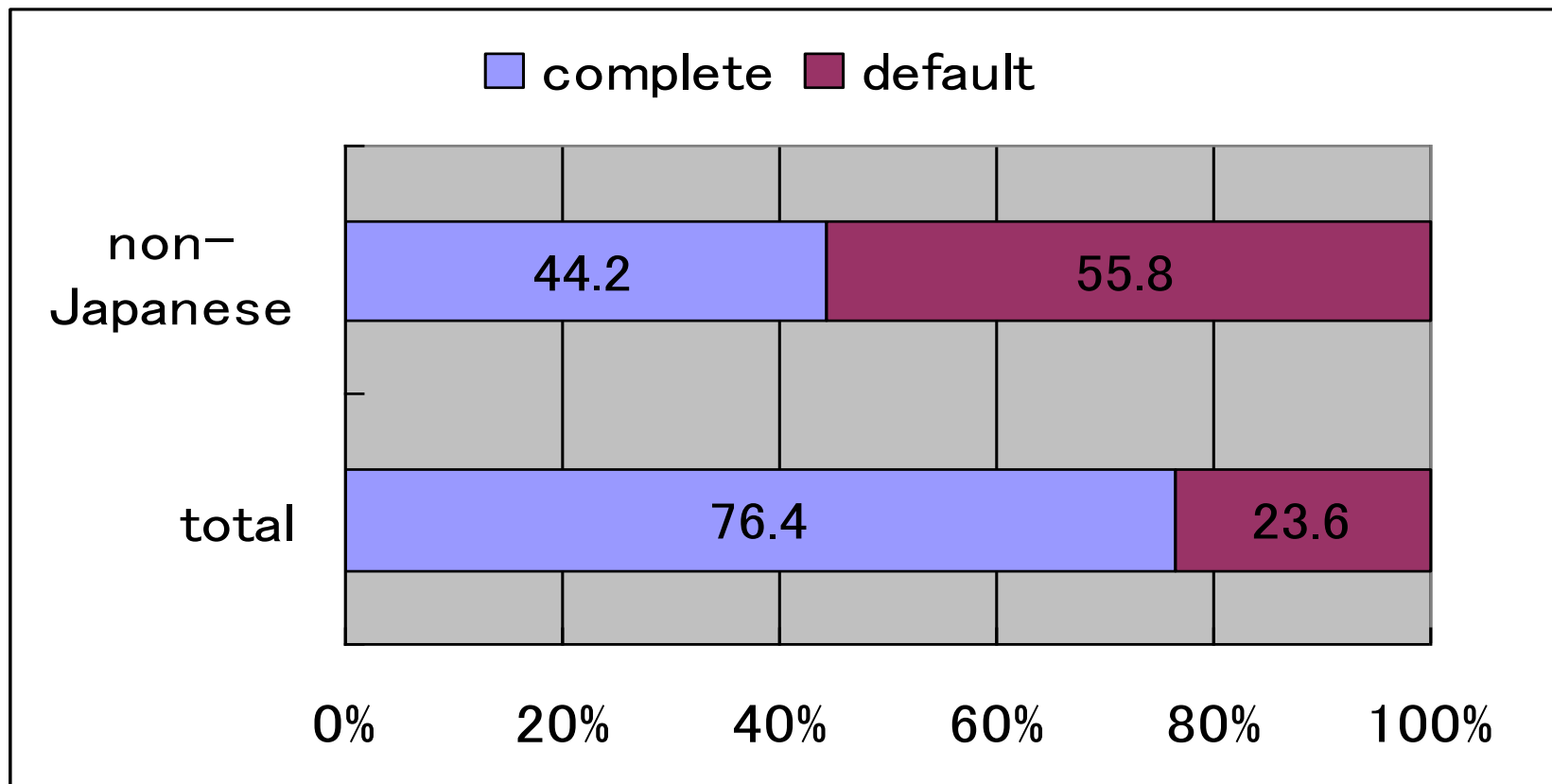
Comparison of age adjusted death rates by cause of death according to nationality





国籍別結核治療成功率(1993年度)

source: 結核予防会在日外国人結核実態調査



外国人結核患者の権利は守られているか

- 言葉が分らず治療中断。
- 不完全な治療は薬剤耐性結核のリスク
- 興行ビザで来日した女性の多くが治療を受けられず帰国
- 治療を受けられず帰国させられる研修生



治療途中の帰国

2008年外国人結核全国実態調査より

| | | | |
|--------|---------|--------|----------|
| ■ 東京都 | 2.9 (%) | ● 愛知県 | 15.9 (%) |
| ■ 広島県 | 7.9 | ● 岐阜県 | 17.9 |
| ■ 横浜市 | 8.0 | ● 神奈川県 | 11.5 |
| ■ 都23区 | 9.9 | ● 兵庫県 | 32.0 |
| ■ 神奈川県 | 11.5 | ● 滋賀県 | 40.0 |
| ■ 千葉県 | 13.3 | ● 茨城県 | 50.0 |

兵庫・滋賀・茨城は母数が20人以下のため参考値

守られていない外国人エイズ患者のプライバシー

- 保健所の多くが「言葉のできる知り合いと来て下さい」
- 他人に知られるのが怖くて5年間病院に行けなかった女性
- 自分ではなく夫に告知されてしまった女性
- 人材派遣会社の同僚の通訳で検査を受けたら・・・。

外国人の治療を阻むもの

- 言葉が分らず受診が不安
- 情報不足でどこに行って良いか解らない
- 経済的な負担
- 職場の支持的な環境の不足



外国人結核患者に対する治療服薬支援員（通訳） 派遣・育成事業（東京都の事業に協力）

- 目的： 受診の遅れによる重症化や感染拡大、治療中断による耐性結核への進展を防ぐため、支援員（通訳）を育成・派遣し、外国人結核患者と保健・医療側とのコミュニケーションを図る
- 活動： 支援員44名：16言語（中国語・コリア語・タイ語・フィリピン語・スペイン語・ポルトガル語・英語・ミャンマー語・インドネシア語・ネパール語・ベトナム語・フランス語・ヒンディー語・モンゴル語・ベンガル語・クメール語）



シェアにおける 在日外国人の健康支援

日本に住む外国人が安心して保健医療サービスを受けられる
(2017-2019)

療養支援

結核患者
医療通訳派遣

HIV陽性者
支援

母子保健

多言語支援体制の構築

女性普及員の育成

地域のネットワーク作り

医療相談

医療電話相談

重病ケースへの通訳支援

外国人コミュニティ啓発

タイ人エイズ

外国人結核

その他啓発・アドボカシー等

NGO等とのネットワークキング

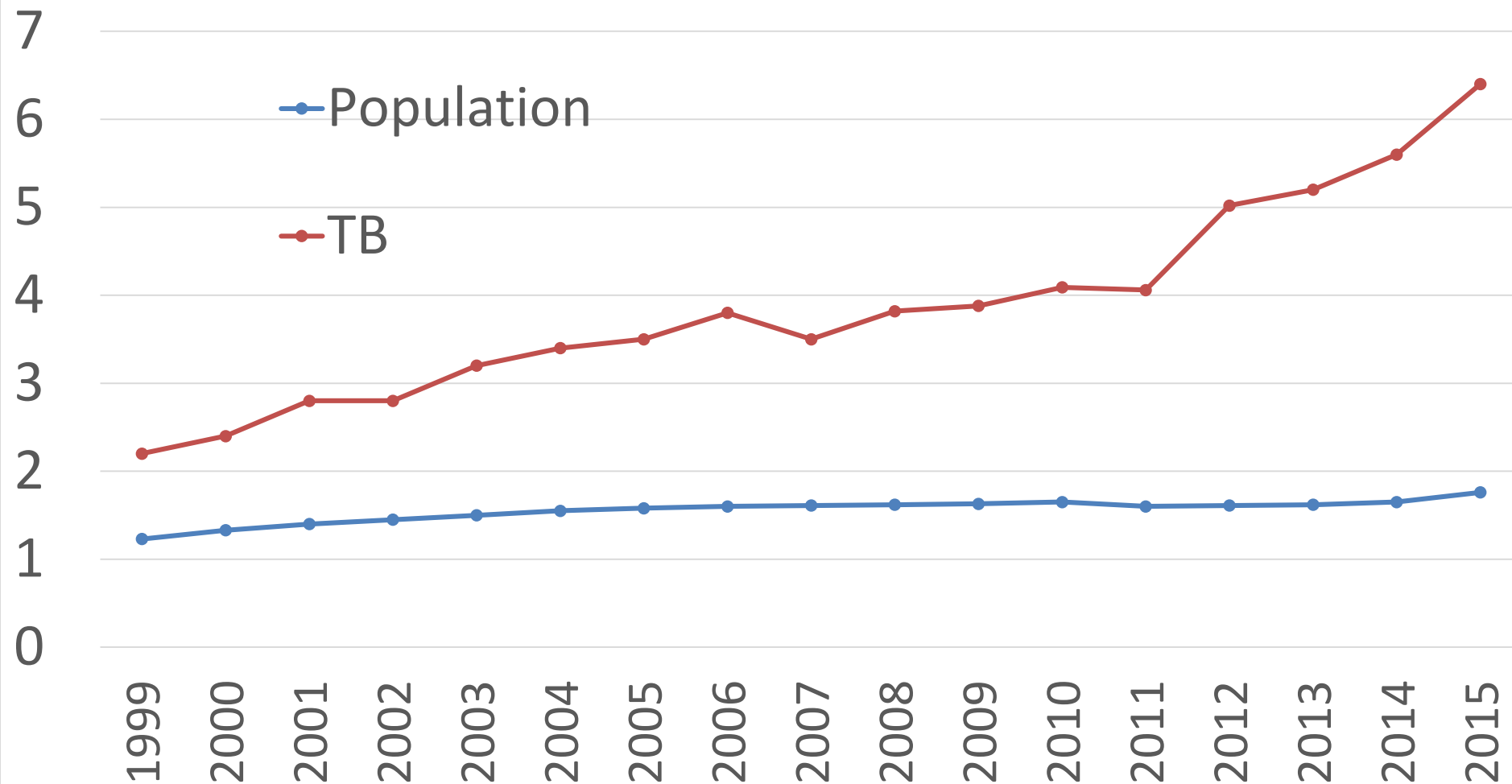
大学講義等

学会発表等

助成金申請、会計処理、広報、ファンドレイジング等も

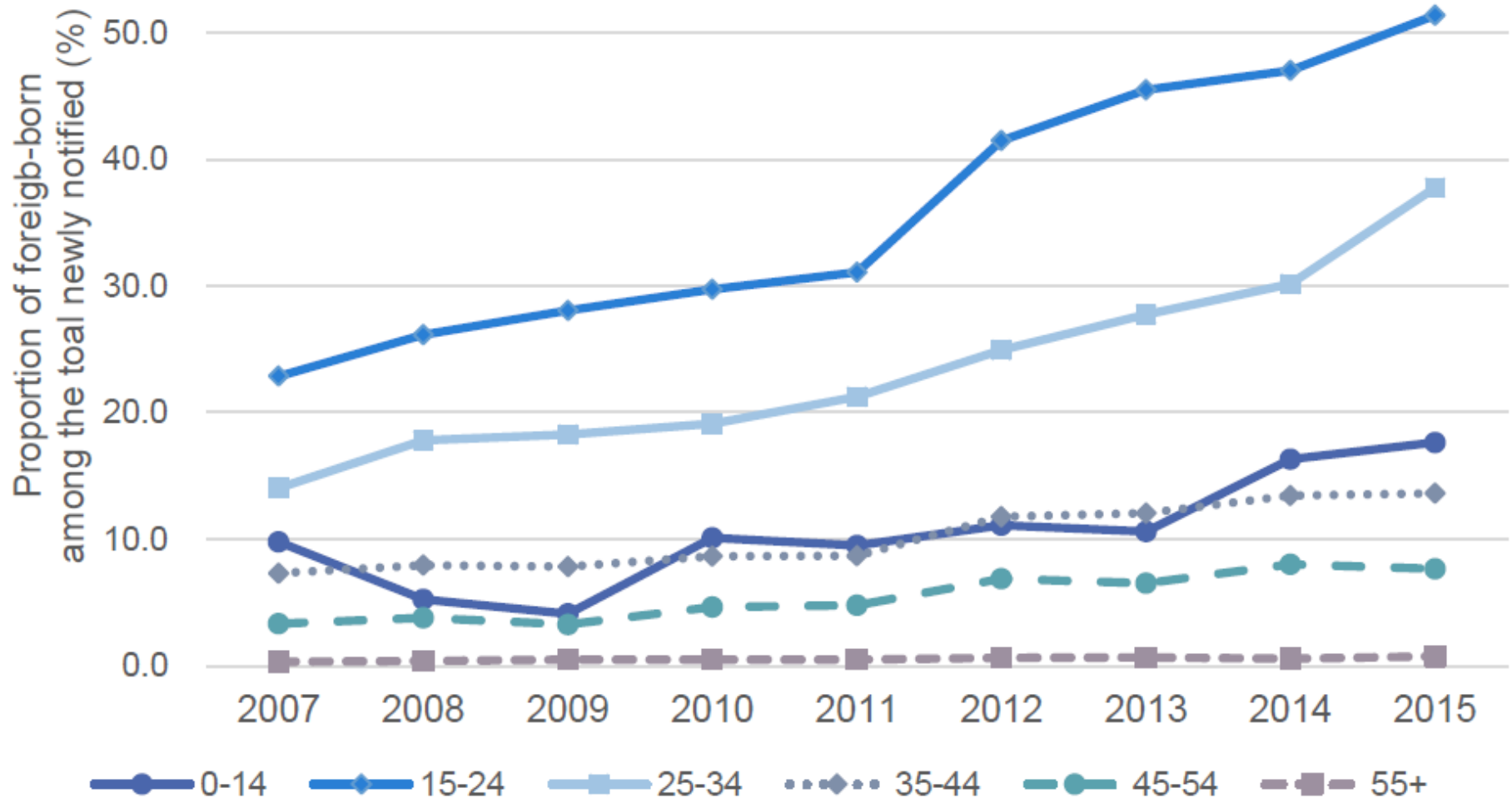


日本の人口に占める外国人の割合と 結核登録数に占める外国人の割合



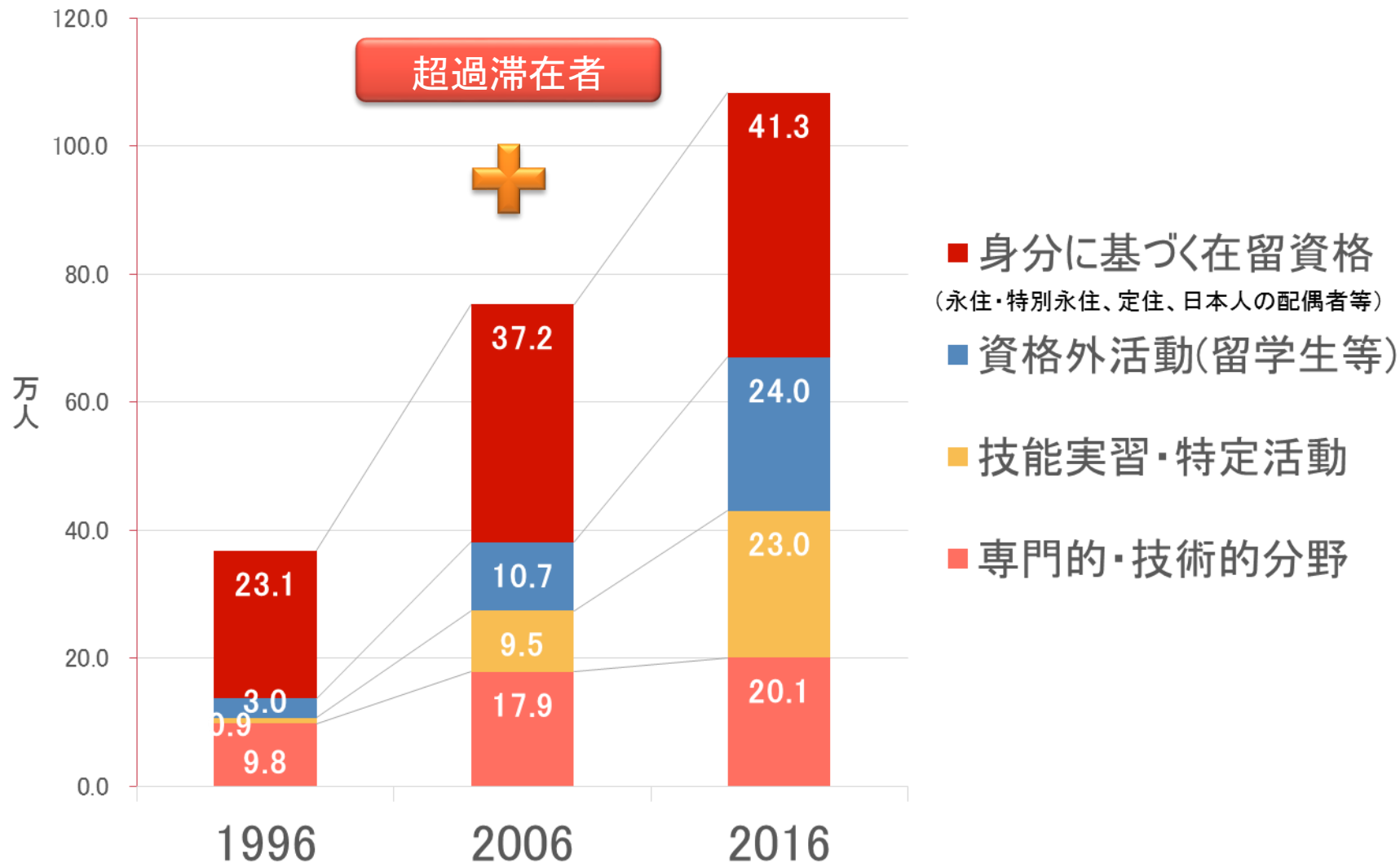


Foreign-born TB cases by age groups, 2007-2015

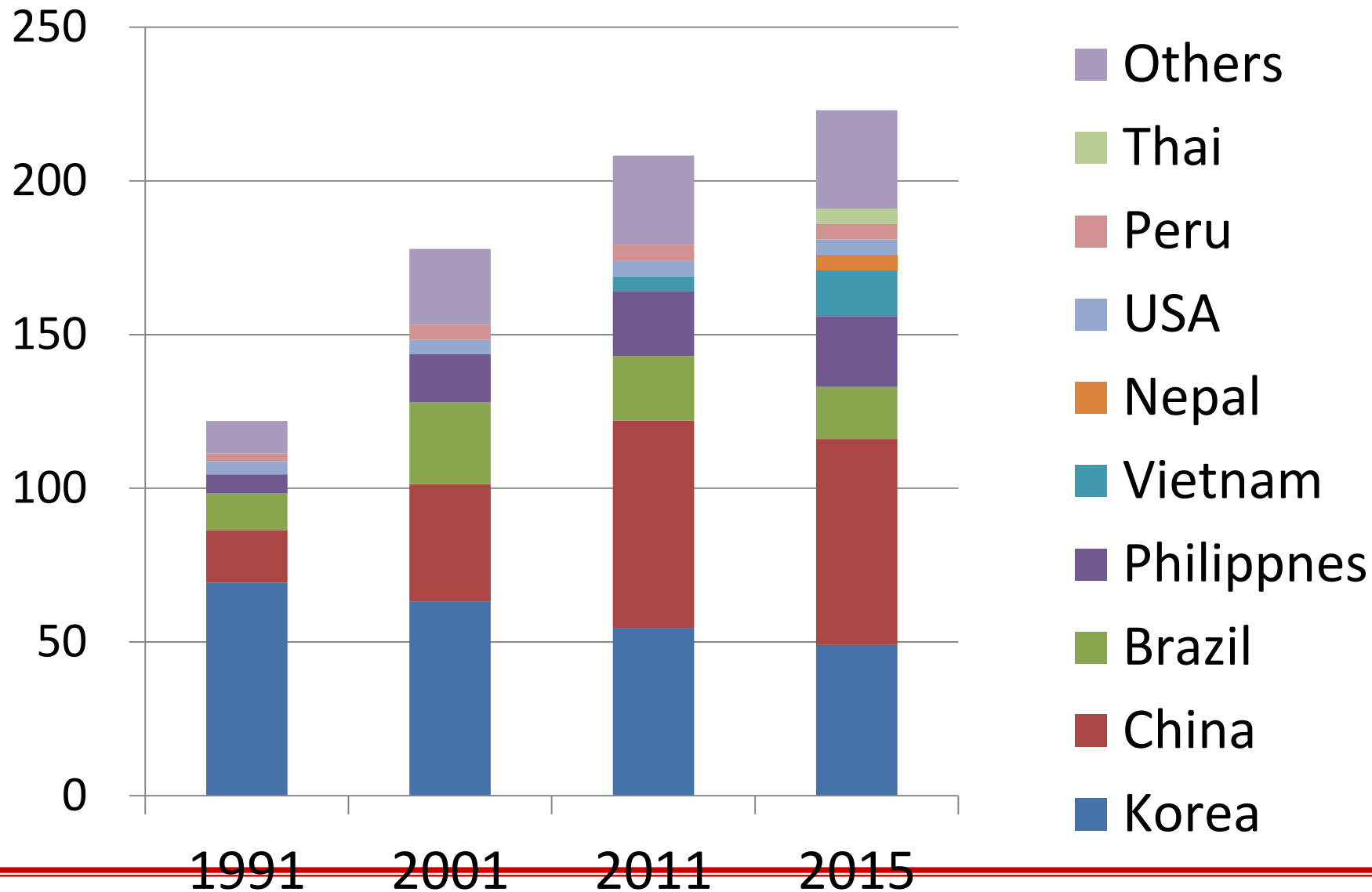


在留資格別外国人労働者数

(厚生労働省「外国人雇用状況」・法務省「入管統計」より改編)



外国人登録数から在留外国人



諸外国の医療通訳制度

- スウェーデン: 医療機関は言葉の不自由な外国人に各自治体で登録した医療通訳の利用を義務化
- オーストラリア: 公共サービスでの通訳利用を促進
 - Royal Women's Hospital 14人の常勤通訳で20言語を24時間対応。
- アメリカ合衆国: 連邦政府の補助を受けた医療機関は通訳体制整備の義務
 - Minneapolis州立病院の例、常勤通訳39名6百万ドル(2007年)
- 制度化のきっかけは、公共サービスの通訳導入で社会のコスト削減・事故や訴訟など → 通訳義務化

今後の課題

- 外国人はどの地域にも、どの職場にもいる時代
- 一見日本語が上手でも医療の言葉は不自由
- 外国人の医療を受ける権利をどう保障するか。

- 言葉の不自由な外国人の増加
- 短期から中期の就労者が増える。
企業内転勤、技能実習生、留学生のアルバイト
- 言葉の支援はますます重要になっている。

- 求められるダイバーシティの視点